

編集長「まめこ」の

『まめまめ放浪記』

あ～あ おふる、きもち良かったあ

藤枝第一助産院

〒426-0066
藤枝市青葉町 4 丁目 11 番 25 号
tel/054-634-2522
ご来院の際はご連絡ください。



最近、大きな病院の産科が危機的な状況だということをよく耳にする。実際、私や姉、姉の子らも産まれた身近な市立病院の産科が、この春に閉鎖された。いずれは、自分の子供もその病院で産むのだろうか…と悩んでいた私にとって、閉鎖のニュースは衝撃だった。では、どこで産んだらいいのだろうか…不安がよぎった。

そんな折、前月号で取材させていただいた家具屋「HWF」の久留さんが、ご自身の娘さんが産まれた助産院を紹介してくれた。「大切なところを伝えてほしい」という意味で、こころさんと共通すると思うんです」と温かな言葉を添えてくれた。「大切なところを伝えるところ」…助産院とは、どんな所なのだろうか。

取材におもむいて、驚いた。入り口を入ると目に飛び込んで来たのは、リビングのような吹き抜けの空間。大きな窓からは南からの光が入り、無垢の床板を温めている。傍らには薪ストーブが置かれ、冬の寒さを心身共に温めてくれそうだ。1家族ごとに入る部屋は洋室か和室か選ぶことができ、プライベートも守られるという。そして希望があれば、個室で出産も可能なんだそうだ。しかし…病院の白い空間の中で産むことが当たり前だと思っていたまめこにとって、ここで出産をするということが、なかなか想像できなかった。

「自宅にいるような空間にしたかったんです。暮らしている所と産む所が、かけ離れてはいけないと思います。自宅にいるようなリラックスした気持ちで出産し、また赤ちゃんとの接し方をここで学ぶことで、自宅に戻っても違和感なく子育てができるのだと思います」。

藤枝第一助産院の飯塚さんが、明るい

笑顔で話してくれた。…なるほど、確かにその方が、自然に赤ちゃんに接することが出来るような気がする。

「出産後に最初に赤ちゃんに触るのは、家族であつてほしいと思います。産まれた赤ちゃんは目がよく見えていませんが、音と匂いでお母さんを判っています。だから人生の初日は、両親の声と匂いで包んであげたいですね。それに最初に家族が触ることによって、これから赤ちゃんが過ごす環境の生活菌に感染させることも大事です。それが赤ちゃんを守ることになるんですよ」。

そうなんだ、知らなかった！赤ちゃんに触ることに、そんな意味があつたなんて。…こんな風に、出産に向けて勉強しているなら楽しいなあ。とても温かいところを感じる。…そうか、これが「大切なところを伝えてもらっていること」なんだろう。

この日、こちらで出産された2組のご家族にお会いすることが出来た。どちらのお母さんも、穏やかで充実した顔をされていて、なんだか綺麗に見えた。家族できちんと出産に向き合い、そしてこれから先を見据えている…その安心と自信が表れているからだろうか。

飯塚さんのお話を聞き、2組のご家族とお会いできたことで、…なんだか出産することに、前向きになつていけるように感じた。助産院では医療行為はできないから、病院とも連携を取っておくことが大切だが、母子の力と家族の力、そして「大切なところ」を伝えてくれる助産院の方々の力を合わせたら、きつといいお産が出来るんじゃないだろうか。出産という素晴らしい時を、全身で感じたい。…最初に抱いていた私の漠然とした不安は、いつしか安心と希望に変わっていた。



- 1/ ところ良く取材に応じてくださった2組のご家族は、今日が退院日。記念にと、3人の助産婦さん方と一緒に薪ストーブの前で写真を撮りました。皆様、ありがとうございました！そして、おめでとうございました！
- 2/ 我が子を抱くお父さん。障子の光がやわらかく包む。
- 3/ 「昨日より、ずっと上手！」助産婦さん方に励まされながら、お風呂に入れるお母さん。頑張つて！
- 4/ 「かわいい…」そう言つて、お兄ちゃんがキスをしました。その様子が可愛くて、周りの大人は頬が緩みっぱなし…。